広報 すぎなみ
Suginami
支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並
9/15
令和２年（2020年）
No.2286

「表現」の力を届け続けるために。

新型コロナウイルスの感染拡大によって多くの文化活動が一時的に休止。表現者たちの日常が大きく変わる今、コロナ禍であっても音楽を、あるいは演劇を、止めずに続けていこうと試行錯誤が始まっています。この秋開催予定の荻窪音楽祭、そして阿佐谷での芝居公演を控えたそれぞれの団体に、新しい芸術鑑賞様式と「表現」を届けることへの思いを語っていただきました。

特集
すぎなみビト
コロナ禍のチャレンジャー［文化・芸術編］

Contents ―主な記事―

6｜9月24日～30日は結核予防週間です　7｜阿佐谷ジャズストリート2020　12｜秋の全国交通安全運動

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：https://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

お知らせ　新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。

広報すぎなみは月２回（１・15日）発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

荻窪音楽祭実行委員

新しい形で、音楽と街の魅力を届けたい。

― 新型コロナウイルスは音楽界にも大きな影響を与えましたね。

平　木：荻窪音楽祭そのものは11月開催ですが、準備は例年春から始まります。3月初め頃はまだ「いつも通りできるだろう」と考えていましたが、徐々に状況が厳しくなり、5月時点で今年の参加者の募集中止を決断しました。

多比良：荻窪音楽祭の特徴は、プロだけでなく地元のアマチュア音楽家がたくさん参加すること。彼らにとっては音楽祭のステージは貴重な演奏の場です。その機会が失われてしまったことは非常に残念ですよね。僕自身もそうですが、いつも当たり前にやってきたこと、当たり前に楽しみにしていたことがかなわない状況にあり、きっと世界中の人が同じような気持ちを抱えているのだろうなと思います。

荻窪音楽祭とは？

平成12年に誕生した音楽イベント。杉並公会堂をはじめカフェや公園、ギャラリーなどあちこちがコンサート会場となり、クラシックの心地よい音色が街中に響きわたります。

― オンライン配信で音楽祭をスタートしたのはなぜですか？

平　木：（参加者の）募集中止を告知する際に、「こうした状況の中でも音楽を通じた街づくりで何ができるのか知恵を絞る」と書き添えたんですね。宣言したからには何か動きたいと考えた時、すでにさまざまな音楽家が動画での音楽配信をスタートさせていたこともあり、私たちもそちらにかじを切りました。もともと音楽祭の企画に参加する予定だったプロの音楽家の方々に声を掛け、オンライン配信用に演奏していただきました。久しぶりに演奏の場ができたと喜んでもらえたのが私たちもうれしかったです。

多比良：せっかく荻窪音楽祭として発信するので、演奏だけでなく荻窪の街のアピールも含めた内容を考えました。多くの方に視聴いただき、好評を得られてホッとしています。とにかく「荻窪音楽祭の活動を途絶えさせない、続けていくことが大事だ」というのがスタッフみんなの認識です。

▲「おぎチャンネル」動画編集作業風景
撮影協力：荻窪芸館

― このコロナ禍で改めて見えた音楽の一面はありますか？

多比良：「生の音楽って、やっぱり響くんだな」ということです。オンライン配信の収録の時、演奏を目の前で聞いて改めてそう実感しました。演奏してくださった方のエネルギーも、いつも以上だったように思います。生で演奏すること・聴くことは、やはり特別だし感動します。

平　木：私は自身が長く合唱団で歌を続けてきました。コロナ禍で合唱の練習ができない中、先日久しぶりにオンライン上で仲間と音を合わせたんです。それがとてもうれしくて。音楽には「みんなで集う」という楽しさもあるのだと改めて気付かされましたね。

― 11月の音楽祭に向けて、今どんな取り組みをされていますか？

平　木：各会場で演奏を行いつつ限定的にでもお客さまを入れられるかどうか、検討を重ねています。感染拡大防止のガイドラインを順守しながらどのような形であれば安全に開催できるのか、ホールの大小によっても変わってくるので、音楽祭独自の基準を作成できないか模索しているところです。それと同時に、今年は「苦肉の策」として行ったオンラインでのコンサートを、音楽の届け方の一つとしてしっかり確立していくことにも力を注ぎたいです。

多比良：オンラインも充実すれば、これまで届かなかった人にも荻窪の音楽が届けられます。従来の方法だけにとらわれず、新しいことに挑戦していくことで、もっと面白い荻窪音楽祭を作っていけたらいいなと思います。

杉並区新しい芸術鑑賞様式助成金対象事業

荻窪音楽祭公式
「おぎチャンネル」
演奏と街紹介の動画を配信中！

音楽祭ゆかりの音楽家たちによるセッションや、お気に入りの荻窪スポット紹介をご覧いただけます。

プロフィール：
（左）平木桂太（ひらき・けいた）　荻窪音楽祭実行委員会音楽委員長。音楽祭では演奏者や会場の選定・調整等、コンサート関連の業務全般を担う。クラシック音楽に造詣が深く、荻窪にある城西病院でのホスピタリティ・コンサートを15年にわたり毎月開催し続けている。

（右）多比良秀俊（たひら・ひでとし）　荻窪音楽祭実行委員会広報委員長。音楽祭におけるビジュアル作り、ホームページの運営管理、コンサートの広報などを担う。今回のオンライン配信では動画編集も担当した。本業は荻窪に事務所を構えるグラフィックデザイナー。

激団リジョロ

作品で問い掛ける、人と人とのつながり。

― このコロナ禍は劇団の活動にどう影響しましたか？

僕らの劇団は昨年から今春にかけて各地でツアー公演をしていました。その最後が3月の神戸公演で、これまでにない数のチケットキャンセルがあったものの、なんとか千秋楽を終えて東京に戻ると、翌日には緊急事態宣言が出ました。激団リジョロは道具も何もかもすべて、みんなで顔を突き合わせてモノづくりをするタイプの劇団です。その特性ゆえに、宣言後は活動を止めざるを得ず、しばらく団員同士の接触も禁止せざるを得ませんでした。

― 演じられない状況下では、どのような心境でしたか？

劇団だけでなく、外部の仕事も一切なくなり、表現の場が著しく失われたことはとてもつらかったですね。落ち込みました。ただ、ある時からは気持ちを切り替え、「今はモノづくりのためのストックの期間だ」と捉え、このような状況で今後どのような劇作をしてゆけばよいのかを考える時間に充てていました。

― 9月に阿佐谷で新作を公演することを決めた背景には、どんな思いがあるのでしょうか？

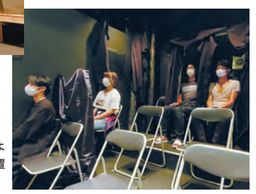
衣食住をはじめ、どんな状況であっても守らなければならないことがいくつもある中で、もしかすると「生で芝居を観る」ということはリストの順番としては最後かもしれません。でも、だからといって芸術や文化が歩みを止めてしまえば廃れます。新しい様式にのっとりつつも、芝居のある日常を取り戻したい。そんな一心で公演を決めました。

― 公演するにあたって取り入れた「新しい様式」とは？

まず感染防止のガイドラインに最大限配慮することは絶対です。さらに、今回の公演は客席を美術化する構想がもともとあって、客席側にもセットを配置することで結果的にお客さん同士が距離を保って座るスタイルとなりました。今回は客席が35席とかなり絞られたので開催に踏み切れたと思っています。チケットを買ってくださったお客さんの中には「しっかりと体調管理をして観に行きます」といったコメントをくださる方もいて励まされています。

▲美術セットは毎回団員たちによる手作り

▲舞台上の役者は3人程度にとどめ、やぐらを活用し役者を上下に分けるなど、ソーシャルディスタンスに配慮した演出を行っている



▶観客がストレスなくゆったり集中して観劇できるよう、演出に合わせて席と席の間にも美術セットを配置する工夫をしている（写真は完成前のもの）

気分よく安心して鑑賞してもらえる方法を考えて準備しています！

杉並区新しい芸術鑑賞様式助成金対象事業

激団リジョロ第33回公演
Re:organ
日 程：9月19日(土)～27日(日)
場 所：阿佐ケ谷シアターシャイン
（阿佐谷南1-15-15）
※今回の取材にご協力いただきました。

― 表現者としてコロナ禍で改めて見えたことはありますか？

「人と人とがつながらなくなっていく社会は怖いな」と、すごく感じましたね。自分1人で判断し、自分1人で全て解決するという方向に世の中が向かっていく。そこにいろいろな間違いや混乱の要因があるように思うんです。そんな不安への問い掛けは、新作にも多分にちりばめました。同時に、以前の構想に比べて脚本の中に不思議と「希望」の要素が増えています。

― 今の私たちに訴えかけるものが詰まっていそうですね。

コロナ禍を経験して、僕は「人って優しくなれるんじゃないのかな？」と思いました。だって、こんなにも自分以外の人のことを考える機会は今までありませんでしたから。そして、コロナ禍に直面したことは、これまでの小劇場の在り方を見直す、演劇というジャンルを底上げする機会でもあるのかなと思っています。この状況を経て演劇の未来が良いものに、もっと言うと良い世の中になるといいなと希望を持っています。そんな思いもあって、新作は今まで以上に気持ちが詰まった作品になっています。ぜひ興味をもっていただけたらうれしいです。

プロフィール：
金光仁三（かねみつ・ひろみ）　大阪市出身。関西学院大学で演劇サークルに所属し、平成10年激団リジョロを立ち上げ。大阪から東京へ進出した後、休止期間も経て17年に本格再始動。同劇団の団長であり、脚本・演出・俳優の三役を務める。俳優としてテレビ、映画などにも多数出演。

文化・芸術活動事業者向け

杉並区新しい芸術鑑賞様式助成金（第3期）募集

3密を防ぐ等の新型コロナウイルス感染症対策を講じて区内で実施する文化・芸術活動事業に対し、事業に係る経費の一部を助成します。

- 対象者や助成額等については右下2次元コードよりご確認ください。
- 事業対象期間：3年3月31日まで
- 申請書類：区ホームページから取り出せます
- 受付期間：9月23日～10月23日（必着）

問 文化・交流課芸術鑑賞助成金担当☎5307-0365

YouTubeで配信中！

紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト×コロナ禍のチャレンジャー［文化・芸術編］のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル

すぎなみビト × interview コロナ禍のチャレンジャー［文化・芸術編］

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。